



みんなの広場

↓多々良南海岸で産卵するカブトガニ



2 カブトガニの産卵観察と幼生放流
億年の営みに思いをはせる

多々良海岸で『カブトガニの産卵を観る会』が開催されました。これは、『生きている化石』と呼ばれるカブトガニの神秘的な産卵を観察しようと、市カブトガニを守る会などが毎年実施しているものです。市内外から多くの観客が訪れ、伊万里高校の理化・生物部による生態説明を受けたあと、砂浜で産卵するカブトガニを観察。また、この日は市内2小学校の児童や保護者などが、自校で育てたカブトガニの幼生（約1,200匹）を放流しました。



参加者に生態を解説する伊万里高校理化・生物部



生きているカブトガニを観察する子どもたち



潮が引いた干潟でカブトガニの幼生を放流

伝 伊万里・有田焼産業会館電波時計除幕式
伝統と歴史を刻んでいきます

伊万里・有田焼伝統産業会館の敷地内に両面ボール型電波時計が設置され、その除幕式がありました。時計は、伊万里信用金庫が設立90周年を記念して市に贈ったもので、高さ5尺、太陽電池・電波式、高級感のあるステンレス仕様となっています。常に正確な時を刻み、大川内山を訪れる観光客を、『おもてなし』の心で優しく迎えてくれます。

7.11



↑大川内山の新たなシンボルとして親んでもらうことを期待

↓精巧に作られた焼き物のカブトガニを市長に手渡す高木さん(左)



6.26

伊 焼き物のカブトガニ2体を市に寄贈
万里のハチガメは市民の『誇り』

多々良海岸一帯がカブトガニ繁殖地として国の天然記念物に指定されることを記念し、市在住で陶芸家の高木和安さんが、カブトガニの焼き物（長さ約60センチ）を市に寄贈しました。高木さんは「本物を見たことがない人も興味を持ってほしい」と1か月をかけて製作。寄贈された焼き物は、多々良海岸の『伊万里湾カブトガニの館』に展示されています。

このコーナーでは、あなたの周りの身近な出来事や話題を待っています。市役所情報広報課広報係までご連絡ください。(☎234313広報係直通)

大川内山ボシ灯ろうまつり 夜限りの幻想的な空間が出現

風鈴まつり開催中の大川内山で、ボシ灯ろうまつりが開催されました。伊万里鍋島焼会館前特設ステージから碗琴の透き通った涼しげな音色が響く中、同会館前広場などに設置された約3,000個のボシに点灯。辺りが暗くなると、会場は幻想的な光の空間に変わり、市内外から訪れた多くの来場者は、一夜限りの夏の夜の音と光を楽しみました。



↑ボシ灯ろうの柔らかな光を見つめる子どもたち

↓海洋温度差発電模型の発電実演で真剣に説明を聞く参加者



電気ってどうやって作るの?

佐賀大学海洋エネルギー研究センター伊万里サテライトでオープンラボ（施設見学会）が開催されました。海洋温度差発電プラントなど各種装置の見学や模型による実演、発電体験、子ども向けの科学教室などがあり、市内外から約200人が参加。ふだん目にする機会が少ない海洋エネルギー発電の仕組みに触れるなど、貴重な体験をしました。

地域 山代公民館に表札を寄贈 地域の皆さんを出迎える新たな『顔』

まちづくりの拠点の新たな顔として、山代公民館に表札が設置されました。これは、山代町で理美容業を営む松永一広さんが寄贈したもので、材料には町内で伐採され数年間乾燥させたスギを使用。まちづくりへの思いを込め、自ら筆を取った松永さんは「この表札が地域住民の縁を取り持ち、今後も公民館がにぎわってくれたら」と話していました。



↑玄関上に表札が掲げられ、喜びの表情を見せる松永さん（中央）

↓最大80人収容可能で、団体の観光客にも対応した店内の様子



おいしい伊万里牛を気軽に食べて

道の駅・伊万里ふるさと村で、JA伊万里直営の伊万里牛ハウス『焼肉の杜』の開店を前にお披露目式がありました。これは、西九州自動車道の南波多谷口インター開通で増加する観光客を呼び込もうと、従来の陶芸体験館を改装したもので、良質な伊万里牛などを安価で提供。団体客にも対応するなど、新たな観光拠点としての役割が期待されます。